

産後における父親支援リーフレットの有効性に関する検討

研究分担者 立花 良之(国立成育医療研究センター 心の診療部
乳幼児メンタルヘルス診療科・診療部長)

研究要旨

背景: 女性の社会進出が進むとともに、また核家族化が進み家事や育児に対する祖父母からの支援が減少するとともに、男性の家事・育児への関与の重要性は高まってきている。一方、母親のみならず父親にも産後うつが生じ得ることが知られてきており、父親自身のメンタルヘルス低下を予防することも重要である。社会的期待に応じ、家事育児負担に疲弊するのではなく、自身のメンタルヘルスをケアすることも考えながら、父親として主体的に育児に関わることを促す心理教育的アプローチが必要である。これらを踏まえ、本研究では子どもの誕生後間もない父親に育児への主体的関わりを促す心理教育リーフレットを配布することが父親の育児関与を高めることを、父親の育児行動得点の変化量を評価指標として、無作為化順番待ちリスト比較試験にて検証する。

方法: 出生14日以内の子どもを持つ父親および母親を、本研究への参加について文書により同意を得た上で、無作為に下記2群に割り付けを行う。A群に割り付けられた父親および母親に対しては、産後2週時にベースラインアンケートを実施し、父親支援リーフレットを配布する。その後、産後3~4か月時に父親および母親にメールを送り、育児行動およびメンタルヘルスに関するアンケートにwebにて回答いただく。B群に割り付けられた父親および母親に対しては、産後2週時にベースラインアンケートを実施するが、父親支援リーフレットの配布を行わず、産後3~4か月時に父親および母親にメールを送り、育児行動およびメンタルヘルスに関するアンケートにwebにて回答いただく。当該アンケートへの回答後、父親および母親に、父親支援リーフレットを配布する。これらにより、父親支援リーフレット配布による効果を検証する。

結論: 今年度は、父親支援リーフレット配布研究計画立案とリーフレットの内容の検討およびドラフトの作成をおこなった。

次年度への課題: 父親支援リーフレットを地方自治体市区町村にて配布し、その効果を検証する。

研究協力者:

水本 深喜(国立成育医療研究センターこころの診療部・非常勤心理士)

較試験にて検証することである。

女性の社会進出が進むとともに、また核家族化が進み家事や育児に対する祖父母からの支援が減少するとともに、男性の家事・育児への関与の重要性は高まってきている。また、子どもの発達においても、父親が子どもに関わることで子どもの発達を促進すること¹⁾²⁾、また逆に父親が子どもに関わらないことが子どもの発達を阻害することが示されている³⁾⁴⁾。しかしながら、乳児をもつ父親・母親の育児行動を、

A. 研究目的

本研究の目的は、子どもの誕生後間もない父親に育児への主体的関わりを促す心理教育リーフレットを配布することが父親の育児関与を高めることを、父親の育児行動得点の変化量を評価指標として、無作為化順番待ちリスト比

「抱く」「寝かしつける」「お風呂に入れる」などの育児行動の頻度の合計数を育児行動得点として調査した先行研究では、母親の育児行動得点 79.95 ± 20.98 に対し、父親の育児行動得点は 35.16 ± 21.00 と、母親の育児行動得点の半分にも満たないことが報告されている⁵⁾。父親の育児への関与を促進することは、母親の育児ストレスの軽減⁶⁾やメンタルヘルスの向上⁷⁾、子どもの健全な発達の促進¹⁾²⁾に加えて、女性の社会進出の促進や少子化の抑制など社会全体にも大きな意義があると考えられる。しかし、父親の育児行動を促進させる方法は、確立されていない。独自に作成した父親の家事・育児行動を促進させるための父親学級プログラムを実施した先行研究では、産後に父親学級プログラムを実施した群で、有意ではないものの父親の家事時間が多い傾向が見られたことが報告されている⁸⁾。より効果的で、かつ広く新生児の父親に働きかけられる、新たな父親の育児行動促進方法が求められている。

一方、母親のみならず父親にも産後うつが生じ得ることが知られてきており、父親自身のメンタルヘルス低下を予防することも重要である。社会的期待に応じ、家事育児負担に疲弊するのではなく、自身のメンタルヘルスをケアすることも考えながら、父親として主体的に育児に関わることを促す心理教育的アプローチが必要である。

そこで本研究では、新生児の父親に育児への主体的関わりを促す心理教育リーフレットのドラフトを作成した。リーフレットであれば、父親学級プログラムのために来院を求める必要がなく、出生届を提出する地方自治体の窓口で配布することで、広く新生児の父親にアプローチできることが期待される。

B. 研究方法

1. 研究デザイン

出生14日以内の子どもを持つ父親および母親を、本研究への参加について文書により同意を得た上で、無作為に下記2群に割り付けを行う。

A群：父親支援リーフレットをすぐに配布する群

B群：父親支援リーフレットを遅れて配布する群

A群に割り付けられた父親および母親に対しては、産後2週時にベースラインアンケートを実施し、父親支援リーフレットを配布する。その後、産後3～4か月時に父親および母親にメールを送り、育児行動およびメンタルヘルスに関するアンケートにwebにて回答いただく。

B群に割り付けられた父親および母親に対しては、産後2週時にベースラインアンケートを実施するが、父親支援リーフレットの配布を行わず、産後3～4か月時に父親および母親にメールを送り、育児行動およびメンタルヘルスに関するアンケートにwebにて回答いただく。当該アンケートへの回答後、父親および母親に、父親支援リーフレットを配布する(図1)。

2. 研究期間

協力者登録期間：倫理審査委員会承認後～
2022年9月30日

観察期間：4か月間(ベースライン時～産後3～4か月時(子どもの検診時))

研究期間：倫理審査委員会承認後～2022年12月31日*

観察ポイント：2ポイント(ベースライン時、産後3～4か月時(子どもの検診時))

*最終報告書作成時までの期間として

3. 研究対象者

出産後間もない子どもの父親および母親のうち、以下の適格基準をすべて満たし、除外基準のいずれにも該当しない患者を研究対象者とする。

3-1. 適格基準

以下の基準を全て満たす方を本研究の対象とする。

1. 同意取得時点において出生14日以内の子どもを持つ父親および母親
2. 出生14日の時点で、父母および誕生した

子どもが同居していること

3. 初めて子どもを持った男女であること
4. 本研究の内容に賛同し、研究への参加に対する同意が、文書により本人から得られた方
5. 観察期間である産後3~4か月後のアンケート回答に協力が得られる方
6. 同意説明文書、リーフレット並びにアンケートに記載されている日本語が理解できる方

3-2. 除外基準

以下のいずれかの基準に該当する方は本研究の対象外とする。

1. 18歳未満の方
2. 代諾者を要する方
3. その他、研究責任者又は研究分担者が本研究への参加を不相当と判断した方

4. 目標登録者数

4-1. 目標登録者数

220ペア (110ペア x 2群)

4-2. 設定根拠

子どもの誕生後間もない父親に、育児への主体的関わりを促す心理教育リーフレットを配布することが、父親の育児関与に及ぼす影響については、先行研究がなく、目標登録者数の設定根拠となるデータが無い。そのため、本研究は、探索的研究として実施することとし、実現可能性を考慮して1群110ペア、両群で220ペアとした。

なお、父親と母親で育児行動得点を調査した先行研究（横断的研究）では、父親の育児行動得点は 35.16 ± 21.00 、母親の育児行動得点は 79.95 ± 20.98 と報告されている⁵⁾。

本研究において、B群（父親支援リーフレットを遅れて配布する群）においては、父親の育児行動得点はベースライン時、産後3~4か月時（子どもの検診時）ともに35.16で変化がなく（変化量0）、A群（父親支援リーフレットをすぐに配布する群）においては、父親の育児行動得

点はベースライン時35.16、産後3~4か月時（子どもの検診時）は先行研究における母親の育児行動得点の60%である47.97まで増加する（変化量12.81）と仮定する。育児行動得点の変化量は個人差が大きいことが想定されるため、変化量の差の標準偏差を28と仮定すると、1群101ペア、両群202ペアあれば、有意水準0.05、検出力90%の下で、2標本t検定により有意な両群間の変化量の差が検出できる。脱落率を10%程度と見込み、本研究の目標登録者数は1群110ペア、両群で220ペアであれば、十分な検出力が確保できると考えられる。

5. 研究対象者のリクルート方法と登録方法

地方自治体市区町村にて出生届受理時に市区町村職員が届け者に研究協力をお願いする印刷物をお渡しする。

6. 研究対象リーフレットの概要

リーフレットは、以下4ページ構成である。

題名：「お父さんのための子育てガイド-父親として主体的に子育て役割を担うために-」

1ページ目：父親の育児参加の効果

2ページ目：自分自身のメンタルヘルスと良好な夫婦関係のために

3ページ目：赤ちゃんのために：赤ちゃんにどう関わる？

4ページ目：新しい役割で必要なサポーターを探そう

リーフレットは、米国で父親支援に取り組むGarfield (2015) の枠組みを参考にし、以下の要素を取り入れた。

- ・父親の育児参加の効果に発達心理学、公衆衛生学の知見
- ・赤ちゃんの発達の理解に発達心理学の知見、乳児育児支援プログラムのNBO (Brazelton)、Hug your baby (Tedder)
- ・周産期メンタルヘルス改善への効果が実証されている対人関係療法
- ・地域支援情報

7. 調査方法

7-1. 調査項目

7-1-1. 研究対象者背景情報は表1のとおり。

7-1-2. 尺度は表2のとおり。

7-2. データ収集方法

webでの質問票調査によりデータを収集する。質問票調査のタイミングに夫婦別にメールを送り、質問票に回答していただく。夫婦ペアでの縦断研究であるため、IDでデータをマッチングできるよう、工夫する。研究スケジュールは表3のとおり。

8. 統計解析

8-1. 解析方法

8-1-1. 解析の基本方針

主要評価項目および副次評価項目についてはFAS (full analysis set) 解析を行い、必要に応じてPPS (per protocol set) 解析を実施する。解析の有意水準は、両側5%とする。統計解析責任者は、統計解析計画書を別途作成し、データの取り扱いを含む統計手法の詳細を規定する。なお、統計解析計画書はデータ固定前までに作成する。なお、当初予定されていた解析計画を変更する場合は、統計解析計画書の版履歴を付記したうえで改訂し、その変更内容等を記録として残す。

8-1-2. 研究対象者背景の解析

研究対象者の背景データの要約統計量を群ごとに算出する。名義変数についてはカテゴリの頻度および割合を示し、連続変数については例数、平均値、標準偏差、最小値、中央値、最大値を算出する。

8-1-3. 主要評価項目の解析

主要評価項目の父親の育児行動得点のベースライン時から産後3~4か月時までの変化量について、要約統計量を群ごとに算出し、変化量が両群および配布前後で等しいという帰無仮説の検定をA群・B群×配布前・後の混合二要因分散分析を用いて行う。

8-1-4. 副次評価項目の解析

各副次評価項目について、各測定時点の測定値および変化量の要約統計量を群ごとに算出しA群・B群×配布前・後の混合二要因分散分析を行う。

8-1-5. 探索的評価項目の解析

主要評価項目及び副次評価項目の層別解析については、各評価項目の解析方法に準じて行う。相関解析については、解析対象変数間におけるPearsonの積率相関係数もしくはSpearmanの順位相関係数を算出し、各相関係数の有意性について検定を行う。

C. 研究結果

本研究は2022年度に実施する。

D. 結論

今年度は、父親支援リーフレット配布研究計画立案およびリーフレットの内容の検討、ドラフトの作成をおこなった(添付資料)。次年度は、父親支援リーフレットを地方自治体市区町村にて配布し、その効果を検証する。

引用文献

- 1) Lamb ME. Fathers: Forgotten contributors to child development. *Human Development*. 1975; 18: 245-266
- 2) Baumrind D, Black E. Socialization practices associated with dimensions of competence in preschool boys and girls. *Child Development*. 1967; 27: 291-327
- 3) Oltman JE, Friedman S. Parental deprivation in psychiatric condition: III. In personality disorders and other conditions. *Disease of the Nervous System*. 1967; 28: 298-303
- 4) Anderson RE. Where's Dad? Paternal deprivation and delinquency. *Archives of General Psychiatry*. 1968; 18: 641-649
- 5) 小林 佐知子、森山 雅子、長谷川 有香ら. 乳児を持つ父親の育児・家事行動と子供の気質および育児困難感との関連. *小児保健研究*. 2012; 71: 386-392
- 6) Kasamatsu H, Tsuchida A, Matsumura K, et al.

Paternal childcare at 6 months and risk of maternal psychological distress at 1 year after delivery: The Japan Environment and Children's Study (JECS). *Eur Psychiatry*. 2021; 64: e38

- 7) Crnic KA, Greenberg MT, Ragozin AS, *et al.* Effects of stress and social support on mothers and premature and full-term infants. *Child Development*. 2003; 54: 209-217
- 8) Yamaguchi S, Sato S. Optimal intervention period for a father's class program designed to encourage childcare behavior. *Jpn J Maternal Health*. 2014; 54: 504

E. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

F. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

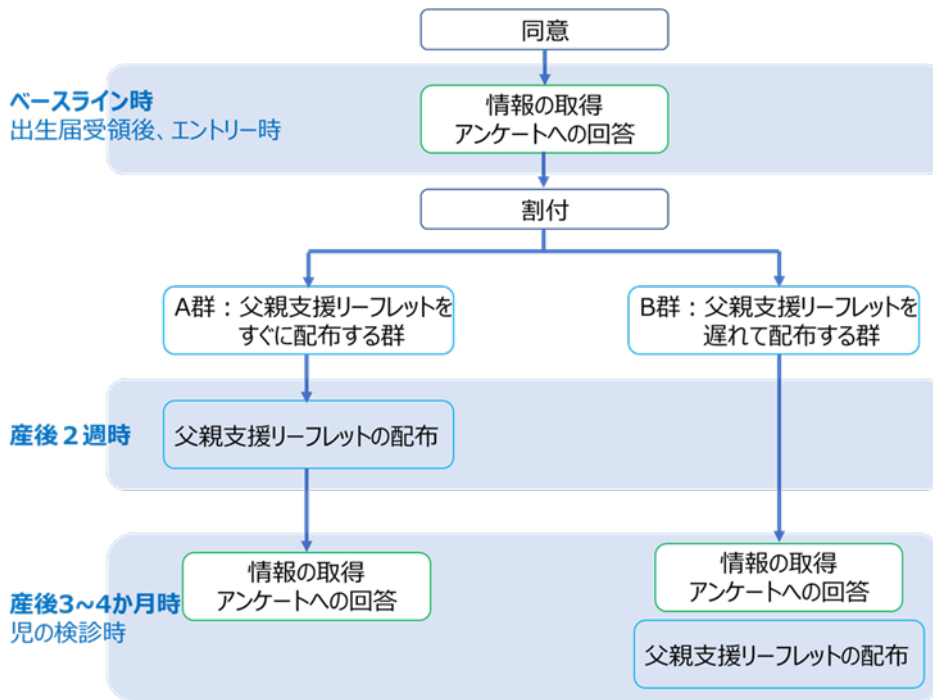


図1 研究デザイン

表1 研究対象者背景情報

収集時期	同意取得時/登録時またはベースライン時
情報内容	父親の年齢、父親の最終学歴、父親の勤務状況、父親の年収、母親の年齢、母親の最終学歴、母親の勤務状況、母親の年収、世帯年収、婚姻関係、婚姻日、子どもの誕生日、第何子か、児の性別、多胎・単胎
収集方法	研究責任者または研究分担者がオンラインで情報を収集し、データマネジメント責任者が管理する。

表2 尺度

収集時期	ベースライン時および産後 3~4 か月時 (子どもの検診時)
情報内容	<p>1. 育児行動</p> <p>「育児行動尺度」(小山ら、2014) 下記 10 項目について平日、休日、それぞれにおける 1 日の平均実施回数を聞き、その合計得点を育児行動得点とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 赤ちゃんを抱っこする 2. 赤ちゃんの寝かしつけをする 3. 赤ちゃんの沐浴をする 4. 赤ちゃんにミルクを飲ませる 5. 赤ちゃんにゲップをさせる 6. 赤ちゃんのオムツをかえる (尿) 7. 赤ちゃんのオムツをかえる (便)

	<p>8. 赤ちゃんを着替えさせる</p> <p>9. 赤ちゃんと遊ぶ</p> <p>10. 赤ちゃんのお守りをする</p> <p>2. その他育児関連行動 下記9項目について平日、休日、それぞれにおける1日の平均実施回数を聞き、その合計得点を育児関連行動得点とする。</p> <p>1. 赤ちゃんをあやす</p> <p>2. 赤ちゃんとおしゃべりする</p> <p>3. 赤ちゃんを散歩や公園に連れて行く</p> <p>4. 赤ちゃんの写真や動画を撮る</p> <p>5. 育児方針について夫婦で話し合う</p> <p>6. 子どもの育て方について身近な人達と話す</p> <p>7. 家に早く帰るようにする</p> <p>8. 育児についての情報を調べる</p> <p>9. 育児関連用品の買い物に行く</p> <p>3. MIBS-J (Mother-to-Infant Bonding Scale 日本語版) 「赤ちゃんへの気持ち質問票」ともいう。研究対象者の子どもに対する気持ちを問う10項目の設問からなり、各設問に0~3の4段階で回答する質問票。</p> <p>4. EPDS (Edinburgh Postnatal Depression Scale) 「エジンバラ産後うつ質問票」ともいう。研究対象者の産後の気分について問う10項目の設問からなり、各設問に0~3の4段階で回答する質問票。</p> <p>5. PSI-SF (Parenting Stress Index Short Form) 「育児ストレスインデックス ショートフォーム」ともいう。親の育児ストレスや親子や家族の問題などを問う19項目の設問からなり、各設問に「まったく違う」~「まったくそのとおり」の5段階で回答する質問票。</p> <p>6. WHO5 (The World Health Organization- Five Well-Being Index) 「WHO-5 精神的健康状態表」ともいう。世界保健機関 (WHO) が精神的健康の測定指標として推奨する質問票で、研究対象者の日常生活における気分状態を問う5項目の設問からなり、各設問に0~5の6段階で回答する質問票。</p> <p>7. 夫婦関係尺度 夫婦関係の満足度や自立度を問う。QMI (Quality Marriage Index) 「夫婦関係満足度尺度」に基づいた夫婦関係を聞く質問票16項目。</p> <p>8. リーフレットの活用状況</p>
収集方法	研究対象者自らが回答し、自らが Web にて、データマネジメント責任者へ提出する。

表3 研究スケジュール

	同意取得時/登録時	産後2週間時 (ベースライン)	産後3~4か月時
① 適格性情報	○		
② 研究対象者背景 情報		○	
③ アンケート		○	○
④ 有害事象		←————— ○ —————→	

